<市民活動情報 vol.84> 北海道立市民活動促進センター 2022.3 発行

しみんセンター84

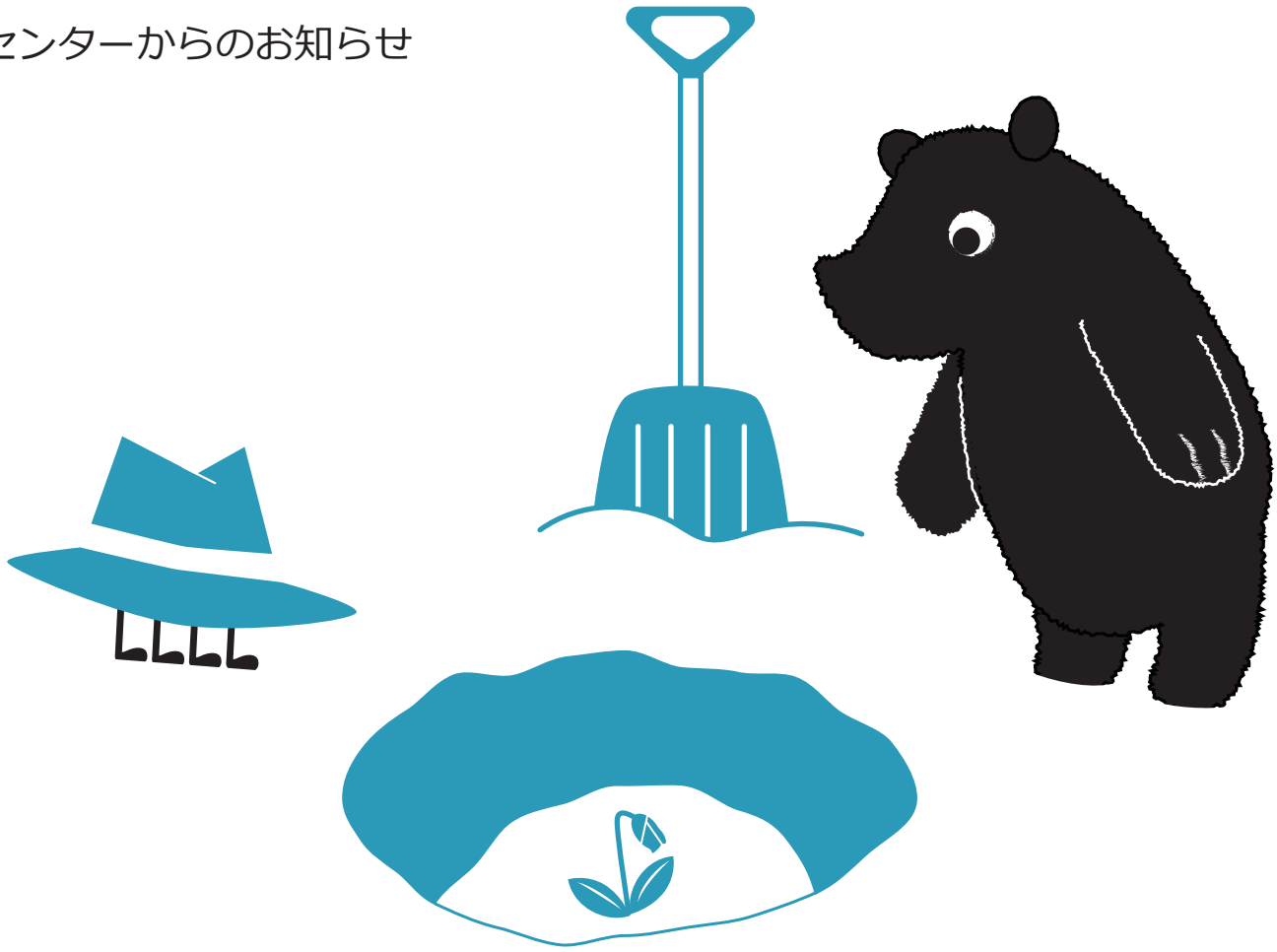
特集

調査研究事業
市町村の市民活動や町内会・自治会の担当窓口調査

2021 講座・事業報告

- 公募企画講座
- 市民活動ステップアップ講座
- 中間支援組織支援事業
- 市民活動スタッフ養成講座

センターからのお知らせ



２０２１年度調査研究事業

特集

市町村の市民活動や町内会・自治会の担当窓口調査

北海道立市民活動促進センターの２０２１年度調査研究事業は、北海道内の自治体の市民活動や町内会・自治会の支援担当窓口を調査することで、市民活動団体（以下、ＮＰＯ）やそれらを支援する中間支援組織との連携を促進させることを目的としてアンケート調査を実施しました。

1 市民活動と協働

人口減少や少子高齢化、人々の生活スタイルや自然環境の変化により、地域社会の課題は複雑かつ多様化しています。課題を解決するために、NPOや特定非営利活動法人（NPO法人）を始めとした公益的な活動を行う組織は、環境や医療福祉、防災など様々な分野で活躍しています。しかし、それぞれの組織がもつ人材や物、資金といった資源は限られていることから単独での活動は限界があります。そこで、より効果的な課題解決のために、他の組織と「協働」して事業を行うことが重要となります。

協働は、単独の組織では不足している部分を補い、強みを活かすことで、地域社会の課題解決や地域住民による自主的な地域運営を目的としています。例えばNPOと自治体の協働であれば、NPOは専門的な技術や知識を持つ人材を、自治体は場所や物などの環境や地域にある情報を提供することが考えられます。協働は複数の組織によって行われることもあり、地域にある様々な組織が幅広く協働する「総動」による住民主体のまちづくりも重要です。

冒頭で書いたように、現在は少子高齢化とそれに伴う人口減少が進んでいます。北海道の高齢化率（65歳以上の人口割合）は、2020年の国勢調査では32.2%となり超々高齢社会といえるものとなっています。この状況ではNPOや行政、町内会・自治会がお互いの強みを活かして事業を行い、社会課題の解決とまちづくりをすることが必要となります。しかし、行政内での町内会・自治会の担当の有無が分かりにくいことや、どのような取組みをしているのか不明といった声も多く、協働へのきっかけづくりにハードルがありました。

2 アンケート調査概要

今回は、NPOの協働先のひとつである自治体の市民活動や町内会・自治会の担当窓口と、自治体が行った市民活動や町内会・自治会に関する研修について、アンケート調査を実施しました。これにより、NPOが自治体や自治体を通して町内会・自治会への情報発信や連携の一助となることを目的としています。

アンケートの期間と内容は、次の通りです。

●調査期間…2022年2月1日（火）～2月28日（月）
●調査内容…1.市民活動担当課について
2.市民活動に関する研修
3.町内会・自治会担当課について
4.町内会・自治会に関する研修

3 アンケート調査の結果概要

調査の結果、179市町村中、110市町村（61.5%）から回答がありました。

研修の内容についてですが、市民活動に関する研修は「まちづくり」が16件、「運営」が14件、「防災」が8件で、「環境」、「地域安全」と続きます。町内会・自治会に関する研修では「防災」が18件、「運営」17件、「まちづくり」12件となり、「医療福祉」、「行政」と続きます。

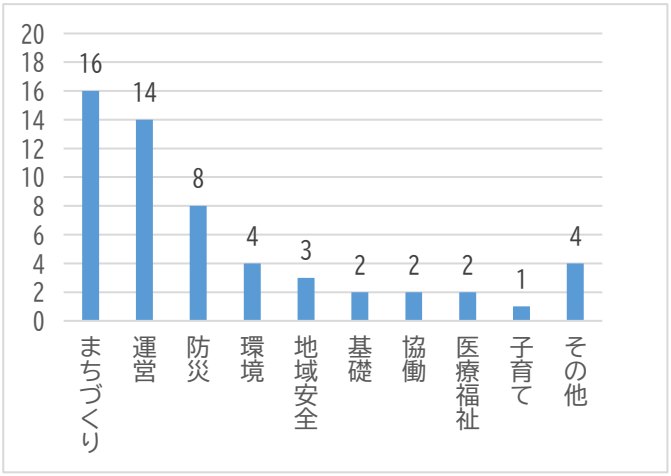
市民活動や町内会・自治会の研修内容は、数に差はありますが、担い手の育成や地域の活性化、自然災害対策など共通する内容がありました。このことから自治体は、NPOや町内会・自治会への支援や連携の必要性を感じていると見られます。

【表１】市民活動に関する研修の内容・講師・対象

内　容	件数
まちづくり	１６
運営	１４
防災	8
環境	4
地域安全	3
基礎	2
協働	2
医療福祉	2
子育て	1
その他	4

講　師	件数
ＮＰＯ	２２
行政	１６
民間	１０
大学	3
その他	5

対　象	件数
地域住民	３７
市民活動団体	２９
職員	１１
その他	１４

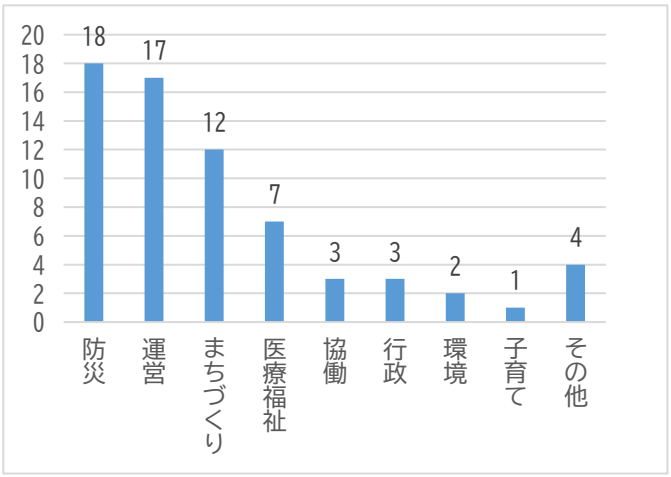


【表２】町内会・自治会に関する研修の内容・講師・対象

内　容	件数
防災	１８
運営	１７
まちづくり	１２
医療福祉	7
協働	3
行政	3
環境	2
子育て	1
その他	4

講　師	件数
行政	３０
民間	２１
NPO	6
大学	6
町内会・自治会	3
その他	1

対　象	件数
町内会・自治会	３５
職員	１７
地域住民	6
その他	5



4　おわりに

北海道立市民活動促進センターでは今回の調査結果をもとに、自治体や地域のNPO、中間支援組織へ、市民活動やまちづくりに関する情報発信をするとともに、各組織が社会課題を行うときに、その事業を支援するための講座やネットワークづくりを行っていきます。

各自治体における市民活動および町内会･自治会の担当窓口については、北海道立市民活動促進センターのホームページにてご覧ください。

２０２１年度公募企画講座報告

ペットの病気セミナー

～猫の猫伝染性腹膜炎～

主催：ＮＰＯ法人ニャン友ねっとわーく北海道

ＮＰＯ法人ニャン友ねっとわーく北海道は、人と動物の共生社会を目指して、保健所や動物管理センター・動物愛護センター等での猫殺処分をゼロにする取り組みをおこなっている。

札幌市では当会のような愛護活動団体や個人の愛護活動家が猫を引き出し、保護を継続し、それぞれで独自に里親を探すなどして、平成２８年度から事実上の殺処分ゼロを達成・継続している。この取り組みを全道・全国に、ずっと未来の先まで、というのが当会の活動目的だ。

多頭飼育崩壊やネグレスト、孤独死など人の社会問題に巻き込まれ、命の危険にさらされた犬猫たちの救助要請を行政や警察などから相談されるが、何日も食事も水も与えられず衛生環境も過酷な状況から保護した猫には、不治の病「ＦＩＰ（猫伝染性腹膜炎）」を発症する個体もある。

ペットは家族。病気になっても根治を目指して手厚く治療し終生飼育をまっとうする、と決めている私たちに保護猫だから最低限の緩和ケアしかしないという選択肢はなかった。根治をし、ほかの猫と同様、里親様のもとで穏やかな日々を送ってほしい、と願っている。これまでＩ５頭のＦＩＰの猫たちの治療データを記録し続け、根治の道をいまなお探っている。

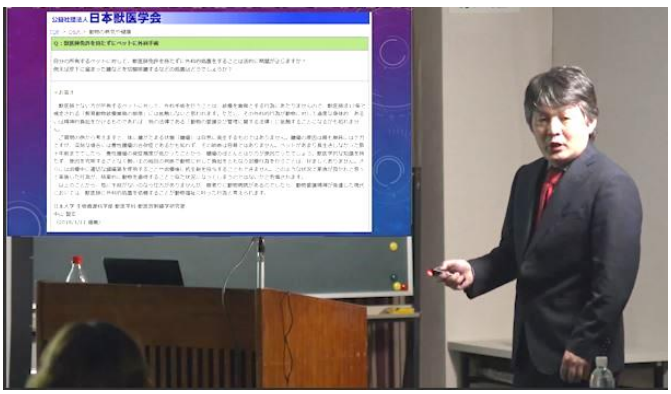
この貴重なデータを獣医師の先生たちと共有し根治の道を見出すとともに、ＦＩＰという難病に向き合っている私たちから「命の大切さ」と「終生飼育のお願い」のメッセージを込めて、今回、ペットの病気セミナーを開講した。受講した方の中には、ＦＩＰで最愛のペットを亡くした方、現在闘病中で私たちと同じく根治を目指している方もいた。

丁寧に一つ一つの病状を確認し対処療法をおこない、発症原因とされるウイルスとの接触を避ける環境をつくり、猫の生きる力を応援する。

多くの動物たちは自ら生きることを諦める習性は持ち合わせていない。どんな状況にだって「生きたい」と声を上げる。私たち人間の都合でその意思を奪うのは、道徳性を欠如した考えだ。動物愛護とは、まず人が動物に理解を示すことから始まる、共生共存の関係性あっての行動である。怪我や病気になったから、面倒をみきれないから、と人の都合で捨てる行為をおこなわないでほしいと心から願っている。

人は賢く、賢いがゆえにいつだって強くなれる。弱い立場にいるものを守りながらともに生きていく術が必ずある、と、闘病猫に寄り添い続ける私たちからのメッセージをこれからも発していきたい。

（報告:NPO法人ニャン友ねっとわーく北海道 安藤由美さん）



※公募企画講座…当センターが公募する、市民活動の基礎知識取得や市民活動に対する意識の向上などを目的とした講座や展示会、パネル展等の自主企画です

おーちゃんドラゴン めかくしソーラン体験教室

一緒に踊って 君もヒーローだ！

主催：ＮＰＯ法人道産子ヒーロープロジェクト

はじめましての方も、そうじゃない方も、こんにちは！

道産子ヒーロー“舞神ソーランドラゴン”の赤い方、ソーランレッド炎龍でい！

今日は、北海道市民活動促進センターさんと俺っち達の園・学校・施設などでの出演をサポートしてくれている、「道産子ヒーロープロジェクト」さんの主催で行われためかくしソーラン体験会についてレポートするぜ！

俺っち達ソーランドラゴンは「できることからはじめよう、ひとり一人がヒーローだ！」を合言葉に、イベントやお祭りでヒーローショーしてるけどよ！ 平日には学校や園や施設でも出前授業を行う事がちょくちょくありやす！

そんな出前授業パッケージの中で唯一のコラボ教室。友人の全盲の旅写真家「おーちゃん」を僕たちの“ヒーロー”と紹介しながら、目の見えないおーちゃんは、どうやって生活するの？？どうやって写真を撮るの？どうやって旅するの？ 踊れるって本当？どうやって覚えるの？ 聞いてみよう！ 考えてみよう！ そして実際にみんなで目隠しをしながら踊りを覚える体験もしてみよう！って出前授業パッケージがあるんだけどよ。

２０２２年２月５日(土)、エルプラザにてその出前授業パッケージを、公開講座として実施したんでい！

俺っち達の友達で、目が全く見えないけど、旅をしたり、写真を撮ったり、ソーラン節も踊る！ 全盲ハッピーマン・おーちゃんのがどうやってやってるの？と、いろんなことを聞いてみたりする前半。

そしてやり方を工夫したり、ほかの人に協力してもらいながらも、目が見えなくても、踊れることを実感してもらうために、みんなで目かくしをして踊りを覚える体験をする後半。

前後半、たっぷり１時間半の素敵な時間！ 目が見えなくても、写真を撮ったり、踊りに挑戦して踊っちゃったりするおーちゃんは本当にスゲー！ 俺っち達にとってまさに“ヒーロー”なおーちゃんに出会って、体験することで、人生が豊かになる。限界を決めつけずに工夫して挑戦すれば誰もがヒーローになれる！ そんなメッセージを発信して、共有できて本当に楽しかったぜ！

授業パッケージでは２時間分の講座だったけど、４５分にぎゅぎゅっと凝縮したパッケージもありやす！ ほかにも交通安全、防犯、防災、国際協力、和芸などの日本文化継承といったさまざまな授業パッケージを有する俺っち達。

俺っち達の園・学校・施設などでの出演をサポートしてくれている、道産子ヒーロープロジェクト、なんと先日ＮＰＯ法人化がなされ、「ＮＰＯ法人道産子ヒーロープロジェクト」となりやした！

来年度はさらにたくさんの人達にヒーロー魂を伝播できたらとワクワクしておりやす！ 以後お見知りおきくださいませ！

（報告:ソーランレッド炎龍さん）

２０２１年度市民活動ステップアップ講座報告

中間支援組織研修会

～非営利団体の事業承継について～

ＮＰＯ法人旭川ＮＰＯサポートセンターでは北海道立市民活動促進センターとともに、１０月３０日（土）９時半から１１時にかけて、非営利団体の事業承継をテーマに中間支援組織研修会を実施いたしました。

近年、ＮＰＯ経営基盤が脆弱あるいは担い手不足などの理由で事業の継続が困難になっている団体が増えています。そのような中で団体を解散するという方法を選択する事例も増えております。しかしながら設立当初の社会課題が解決されているわけではなく、何かほかに事業承継の方法を選択できないか、中間支援組織としてどのような助言ができるかを検討するのが研修会の趣旨でした。

最初に北海道教育大学旭川校の角一典教授より最近のＮＰＯ法人を取り巻く環境などをお話していただき、本研修会のテーマについて課題整理していただきました。

次に、元ねおす設立者／理事長で、現在はＮＰＯ法人くろす野外計画社（黒松内ぶなの森自然学校）の代表である高木晴光様から、いくつかのキーワードとともに「ねおす」が発展的に解散された事例紹介がございました。「（もとより）ＮＰＯは人材を育成し輩出する機関であるべき」「目の前のお客様にサービスを提供するだけでなく、それを含めて自身が楽しみ成長できるような企画を考える」など、主に人材育成という観点でご経験に基づいた示唆に富むお話だったと思います。

最後は北見ＮＰＯサポートセンター理事長の谷井貞夫様より、現在取り組まれているオホーツク地域の複数の福祉系ＮＰＯが株式会社を設立して事業承継する事例紹介がございました。それぞれの人材育成や間接作業の効率化など、各ＮＰＯが日頃より課題と考えていることの解決や、連携することによって業務が拡大することを期待して、そのプラットフォームを株式会社という形態で実現しようという試みです。

お話を聞きながら「何故、ＮＰＯではなく会社？」という問いを持ちましたが、それについても「営利／非営利ということよりも、必要なことを誰がやるのかという視点が大事で、今回の事例に関しては株式会社という形態が今は適していると考えた」とのことでした。非常にアイデアに富み、将来が楽しみになるようなお話でした。

どのお話も興味深い内容で、その後の意見交換会では、自分事に置き換えて質問されていた方が多かったようです。

（報告：NPO法人旭川NPOサポートセンター　長嶋正明さん）

ＮＰＯ法人旭川ＮＰＯサポートセンター

※市民活動ステップアップ講座…主に道内各地の中間支援組織と当センターの協働で開催。実践に活かせる知識や手法などを具体的に学び、市民活動団体の活性化とスタッフ等の能力向上をはかります

しごとＢＡＲ

「しごと」について語り合う架空のＢＡＲです。「しごとＢＡＲ」の開催も、私には大切な「しごと」のひとつなのですが、コロナ禍においては開催できることが本当にうれしい一年となりました。

いつの時も「先が見えない時代」と言われがちですが、コロナ禍という閉塞感たっぷりな先の見えなさでも、未来をつくる「わくわく」や「こんな失敗もして来たんだよね」という笑い話をお伺いし、お届けすることはこの時代特有の孤独や不安の解消にちょっとはお役に立てているのではないかなと思っています。

開催が終わるたび毎回、「おもしろいひとって、たくさんいる！」と興奮したり、やさしく深い学びが自身の生きる励みになっています。

また、当法人の「やってみたい」気持ちに運営面でサポートしてくださる、地域の多目的スペース“Junction”さんと一緒に企画を育てられる幸運に、厚く感謝申し上げます。

あ、「“しごとＢＡＲ”ってなに？」って方、ごめんなさい。

世の中には、なんだか猛烈におもしろいことをしているひとがいますよね。そんなひとが一日限定で形式上のマスター（もしくはママ）になり、参加者を迎えます。まちスポスタッフがお客さん（聞き役）としてマスターとひそひそ話（あくまでイメージ）するのを、そのままマイクとプロジェクターを通してみなさんにご覧いただくスタイルの「講演会」です。Youtube で生配信とアーカイブで配信もしています。

講演会やトークショーと異なり飲み物片手にリラックスして交流していただくことが目的です。ふつうの人たちが、“身の丈で”“試してみる”ことの背中を押す取組みでありたいと始めました。次回で１３回目になります。

音楽、ガーデン、カフェ、行政、教育、文学、ラリードライバー、宮大工、ラジオパーソナリティ、プログラミング教室主宰、ＮＰＯ法人代表、野球監督など、マスターもジャンルレス。みなさんのお話から、市民活動やお仕事の本質が「愛情」であること、それが一朝一夕ではなし得ないことを感じ取っています。

夢を叶え続けたり、誰かの“どしゃぶりの雨”に寄り添ったり、いろんな想いが重なって、まちが育っていくんですね。

これからも、“ひとが自分の手でつかみ取る、しあわせのカタチ”をお届けします。ちょっと風変わりなひとや、ものすごく熱血なひと、とんでもないことを教えてくださる方がいるかもしれませんね。

これを読んでいるみなさん、ぜひこころをあたためにご覧くださいね。ドライブも兼ねて、「花と本のまち恵庭市」にも遊びにいらしてください。会場、もしくは画面上でお逢いしましょう。

（報告:NPO法人まちづくりスポット恵み野 佐藤亜美さん）

ＮＰＯ法人まちづくりスポット恵み野

２０２１年度中間支援組織支援事業報告

ＮＰＯ法人くしろ・わっと

広報物作成の基本ルールを学ぼう！

2022年1月29、NPO法人くしろ・わっとでは、チラシ・ポスターを見やすく上手に作りたいと考えている個人・団体等を対象とした講座「広報物作成の基本ルールを学ぼう！」を開催いたしました。講師には、販売促進デザインや企業ロゴの作成・ホームページ制作等を専門として活動されている、濱野販促企画様をお招きいたしました。

前半は、広報物作成における情報収集の仕方・記載する情報に優先順位を付ける等、チラシ・ポスター作成前の基礎的な考え方である「事前準備の重要性」について解説して頂きました。講師の方が実際の作業で初めに行う事として、必要と思われる情報を全て書き出し、その情報にそれぞれ重要度を付けていきます。いざ書き出してみる事で、頭では分かっているつもりでも曖昧になっている部分が明確になり、本当に伝えたい情報がはっきりします。集めた情報を整理整頓する作業は、良いチラシやポスターを作成するうえでは欠かせない作業だそうです。

後半はグループワークとして、参加者自身が過去に作成したチラシ等を持参して頂き、改めてその広報物のターゲットや目的、サービスの特徴・魅力についてグループで意見を出し合い集約。その後、模造紙に改善点をまとめた簡易ポスターを作成し発表し、講師の方からワンポイントアドバイスを頂き終了となりました。

良いチラシ・ポスターの定義とは？という質問が出た際には、「情報が簡潔に伝わり、申し込み等のアクションが起きる」といった行動発生に繋がれば良いチラシ・ポスターに当てはまると仰っていました。 その他、一般的な失敗例として挙げられたのが「余白ギリギリまで文字を大きくする」といった点でした。文字を大きくレイアウトする事で目立つと思われがちですが、ただ大きくしてしまうだけでは圧迫感のある印象を与え、逆効果の場合が有るそうです。チラシ・ポスター等の作成において、初めて見た人でも分かりやすい言葉・見やすいレイアウトを心がけて作っていく事が重要であると感じました。

受講者終了後の参加者からは、「理論的な説明で分かりやすかった」、「今回よりももっと応用的な講座も受講してみたい」と様々な意見を頂き、SNS 上でもまた同じ様な講座があれば是非受講したいといった反響もありました。今回の講座は、まん延防止適用期間での開催では有りましたが、参加者にはコロナウイルス感染症対策を徹底した上で受講して頂き、大変充実した講座になったと感じました。

（報告：NPO法人くしろ・わっと　天野虎次郎さん）

※中間支援組織事業支援…道内の中間支援組織が主催する講座、ワークショップなどの事業を支援しています

ＮＰＯ法人旭川ＮＰＯサポートセンター

脱炭素社会に向けてのメッセージイベント「クリスマスキャンドルナイト」

旭川NPOサポートセンターでは、法人設立以来、温暖化防止の講演会やセミナー、省エネクッキング、ごみゼロ大作戦など様々な機会をとらえて、地球温暖化防止の啓発活動を行ってきました。

近年、地球温暖化が原因と思われる気象災害が各地で頻発して、市民生活にも甚大な被害を及ぼしています。

待ったなしの現状を変えていくために脱炭素社会にシフトしていくことが求められています。

キャンドルナイトイベントは、市民一人一人が持続可能な社会を考えていただく機会にしたいと実施しました。環境講演やセミナーには足が向かない方でも、音楽イベントなら参加する方もいるため、音楽に耳を傾けながらキャンドルの灯りを楽しめる内容にしました。

もともとキャンドルナイトは、2001年に当時のアメリカのブッシュ大統領の原発政策に反対してカナダで始まった自主停電運動がきっかけとなっています。電気を消してキャンドルの灯りの下で過ごそうというスローガンの下、世界中で広がりを見せています。

2003年に日本でも始まった「100万人のキャンドルナイト」には、当センターも賛同し、温暖化防止活動の一環として夏至と冬至の時期に合わせて、年二回実施してきました。

しかしながら、長期化するコロナ感染拡大防止のため、この2年間は中止を余儀なくされました。

今年はコロナ感染防止対策を徹底し、入場制限も行いましたが、久しぶりのライブとあって、多くの市民の方にご参加いただき、参加者には上川総合振興局協力のもと、蜜蝋キャンドル作成キットをプレゼントしました。

当日は、まずスライドでキャンドルナイトの趣旨を説明し、「電気を消してスローな夜を」のテーマのもと、会場の照明を必要最低限まで落とした中、旭川市内で活動するハープ奏者の奏でる音色と軽快なジャズ演奏に癒されながら、平和やエネルギー、地球の未来のことを思い巡らすひと時となりました。イベントにはローカルテレビ局も取材に訪れ、地元での関心の高さを感じました。

このキャンドルナイトイベントが、市民の方々に地球温暖化がもたらす影響と、サステナブルな社会を目指すためにできることは何かを考える一助になったことと思います。

（報告：NPO法人旭川NPOサポートセンター　森田裕子さん）

２０２１年度市民活動スタッフ養成講座報告

第三回 市民活動スタッフ養成講座

NPOの会計

・日　時：2021年10月7日
・講　師：瀧谷 和隆さん
（税理士、NPO法人エーピーアイ・ジャパン理事長）

子どもの頃にもらったお小遣いやお年玉から私とお金の関係がスタートしました。

私たちの生活から切り離すことのできない「お金のこと」。それなのに私自身、まともに教わった記憶がありません。お小遣い、家計のやりくり、そして職場での予算執行にかかる経理を担当した経験だけで、「NPOの会計」についても知っているつもりになって過ごしてきました。

そんな私に市民活動スタッフ養成講座で「NPOの会計」について詳しく教わる機会が訪れました。市民活動サポートセンターで働き、皆さんの事業報告書を見る機会もある中で、今まで機械的にしか確認をしてこなかった「活動計算書」や「貸借対照表」「財務目録」とは何かということはもちろんのこと、そもそも「NPO法人会計基準」とは何かということも理解していなく、お金が適切に使われていることが証明されれば良いものとしか思っていなかった自分が恥ずかしく、大いに反省しました。

会計をしっかりと報告し公開することによって、その活動の理解や信頼を得るものとなるというお話から、確かに勘定科目を見るとその団体がどんな活動をしてきたかが見えてくることもわかり、会計の役割という部分が今更ですがようやく理解できたました。「NPOの会計」について、まだまだ分からない部分はありますが、今までより積極的に確認していくことで市民活動団体との距離を近づける一つのアイテムを手にした気持ちになりました。

（報告：札幌市市民活動サポートセンター　柴田由香さん）

第四回 市民活動スタッフ養成講座

企業との協働

・日　時：2021年10月26日
・講　師：加納 尚明さん
（NPO法人札幌チャレンジド理事長）

今回の講座では、NPO法人札幌チャレンジドの代表理事である加納尚明氏が講師を務め「企業との協働」をテーマに開催されました。
内容としては、NPOと企業が協働しながら事業を進めていくには、そしてその協働をするためには何が必要かを前半で学び、後半では実際に自分たちにはどんなことができるかをワークショップでアイデア出しを行いました。

前半の講義では「協働」するために必要な要素として、会計、ソーシャルビジネスが成功するための必要な要素、広報、企業の在り方（ビジョンや目的など）、企業はなぜ社会貢献活動を行うのか？ といったことを学びました。

そもそも協働していくためには、お互いの役割や職業も異なることから、きちんと相手の情報を得ることが大切だということや、NPOならではの専門性を発揮しながら「私たちと一緒に手を組むことでこんな良さがありますよ」というアプローチをしていくことが重要というお話が、印象に残っています。

一方で、アプローチも重要ですが、協働する中で私たちだけにメリットがあることだけを提案するのではなく、企業や相手にとってもメリットがある、そして組織の理念にもつながる提案が重要だということがとてもよくわかりました。

後半のワークショップは「株式会社北海道日本ハムファイターズに対して協働に向けた提案を考えてみる」という内容でした。アイデア出しにはとても苦労しましたが、社会課題に対していかによりよい提案と協働のプロセスを踏めるかは、仕事の中でも意識をしながら取り組めたらと思っています。

また、様々なNPOが存在している中で、検索するとすぐに自分たちの活動を知ってもらえるような工夫や情報発信をきちんと行うことで、誰かと協働・連携していく際の信頼にもつながることから、目につきやすい広報や、わかりやすい情報発信能力も必要だということを再認識する時間でした。

（報告：NPO法人北海道NPOサポートセンター　遠藤千尋さん）

※市民活動スタッフ養成講座…市民活動に関する知識や実践的技能を身につけ、新たな社会づくりに活かすことを目的とした連続講座です（全六回開催）

第五回 市民活動スタッフ養成講座

アフターコロナの ファンドレイジング

～寄付・会費・助成金～

・日　時：2021年11月16日
・講　師：徳永 洋子さん
（ファンドレイジング・ラボ代表）

講座ではファンドレイジングの基本的な考え方から始まり、寄付集めの仕方などの資金調達のノウハウや助成金のポイント、コロナ禍でのファンドレイジングの大切さを学びました。

寄付集めの仕方では、寄付者に寄り添い豊富なメニューを用意して手軽に寄付出来る工夫をすることの大切さについて説明がありました。それにより多種多様な対応ができ、自分にあった寄付をしよう！ と考えるようになる。いかに寄付する人に負担をかけないかが大事だとのお話でした。

会員拡大には、会員になった時の特別感と、自分が貢献した、一緒に作り上げたという気持ちが大事。会員さんになってもらったからには、継続していただけるような工夫が大事だと、実際におこなわれた例をもとに説明がありました。

継続率を高めるには、継続依頼を忘れず、マンスリーの導入や「ついで」に納入できる機会をつくる。自分たちの活動に賛同してくれる会員さんをつくることの大切さについてもお話していました。

コロナ禍のファンドレイジングで、今こそやるべきことは

1. オンライン寄付の導入
2. 既存の寄付者との関係性の強化
3. 顔を見せる

「顔を見せる」と聞いたときはコロナ禍ならではの内容だと感じました。人は人に寄付をする。コロナ禍で難しいが顔をなるべく見せるようにとのことでした。

ファンドレイジングや寄付について基本的なことからノウハウまで時間いっぱいまで教えていただきました。会員さんを団体のファンとして考えるなど親しみやすく共感しやすかったです。お話を聞けば聞くほど人と人との繋がりの大切さを感じました。

（報告：NPO法人くしろ・わっと　菊池若菜さん）

第六回 市民活動スタッフ養成講座

活動と組織の基礎を再確認する

・日　時：2021年12月16日
・講　師：川北 秀人さん
（IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者）

12月16日に行われた講座では、市民活動やまちづくりの課題について学びました。

前半は、市民活動とサークルの違いについてお話がありました。市民活動は「NEED（求められること）」の解決に向けて活動することであり、住み心地の改善など市民生活をより豊かにすることが目的。一方で、「WANT（自分がしたいこと）」が同じ仲間が集まり活動するのがサークル。市民活動には課題の解決を求められていて、継続した実績の積み重ねが地域の信頼を得ることに繋がると学びました。

後半は、市民活動における課題について、人口・年齢層のデータを見ながら解説がありました。データから、北海道の市民活動における課題は「まちづくりの担い手の高齢化・人口減少」であることが顕著でした。北海道は全国に比べ高齢化と人口減少が著しく、まちづくりの主役である65～69歳の年代の減少、介護ニーズの増加により市民活動に参加が難しい状況にあります。また、30～40代の人口も少なく、これらの世代を呼び込むことも課題になっています。

市民活動は人と人との交わりで発展していくものであると同時に、新しいやり方、新しい視点を取り入れることが重要だと感じた講座でした。社会は変化し続けるので、従来通りのことを続けるだけでは変化についていけず取り残されてしまうため、アドバイスやサポートを通して「新しいことを取り入れる」というハードルをいかに低くできるかが、これから私たち中間支援施設に求められることだと感じました。

（報告：千歳市民活動交流センター「ミナクール」 松田萌さん）

●センターからのお知らせ●

ホームページがリニューアルしました。

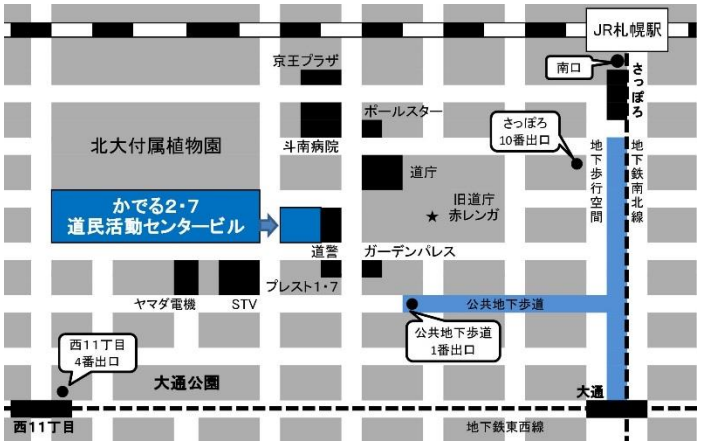
２０２２年３月３０日（水）にホームページがリニューアルしました。ホームページでは、施設案内のほか、過去の情報誌や講座情報などをご覧いただくことができます。

左メニューのカレンダーで日付を選択するとその日の予約状況を確認できるので、センターを予約する際の予約状況確認などにご利用ください。

また、「北海道市民活動情報提供システム」では、北海道内で活動する市民活動団体（ＮＰＯ）や特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）が団体情報やイベント、ボランティアについて発信・検索することができます。

北海道立市民活動促進センター

開館	月～金曜日：9:00～21:00
	土･日･祝日：9:00～18:00
交通手段	Ｊ　Ｒ：札幌駅南口徒歩約 13 分
	地下鉄：さっぽろ駅（10 番出口）徒歩約 9 分
	地下鉄：西 11 丁目駅（4 番出口）徒歩約 11 分
	公共地下歩道：（1 番出口）徒歩約 4 分



〒060-0002　札幌市中央区北２条西７丁目道民活動センタービル（かでる２．７）８階
TEL.011-261-4440　FAX.011-251-6789
E-mail:center@do-shiminkatsudo.jp　　http://www.do-shiminkatsudo.jp/
指定管理者：（公財）北海道地域活動振興協会